

第三十七回 帝國議會 貴族院議事速記録第十三號

大正五年二月二十一日(月曜日)

午前十時六分開議

議事日程 第十三號 大正五年二月二十一日

午前十時開議

第一 大正四年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)審查期限ヲ定ムルノ件

第二 大正四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第二號)審查期限ヲ定ムルノ件

第三 明治三十九年法律第三十一號中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第四 砂鑛法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第五 農會法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第六 罹災救助基金法中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第七 元屯田歩兵扶助ニ關スル法律案(衆議院提出) 第一讀會

○議長(公府德川家達君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致サセマス

〔長谷川試補朗讀〕

去ル十八日請願委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

請願文書表第八回報告書

同日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

賣藥法中改正法律案特別委員會
委員長 三宅秀君 副委員長 男爵毛利五郎君
同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ
砂鑛法中改正法律案
農會法中改正法律案
一昨十九日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ
銀行條例中改正法律案外二件特別委員會

委員長 侯爵德川 賴倫君 副委員長 木内重四郎君

日支銀行法案外一件特別委員會
委員長 伯爵柳澤 保惠君 副委員長 子爵岡部長職君

重要物產同業組合法中改正法律案特別委員會
委員長 前田 正名君 副委員長 岡田 良平君

私立學校及公益法人ノ用地免租ニ關スル法律案特別委員會
委員長 子爵稻垣 太祥君 副委員長 江原 素六君

軍人恩給法中改正法律案特別委員會
委員長 侯爵細川 護立君 副委員長 男爵村上 敬次郎君

明治四十年法律第十一號中改正法律案特別委員會
委員長 伯爵松平 賴壽君 副委員長 男爵高木 兼寛君

醫師法中改正法律案特別委員會
委員長 伯爵松平 賴壽君 副委員長 男爵高木 兼寛君

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ハ本院ノ議決ニ同意シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

郵便法中改正法律案
鐵道船舶郵便法中改正法律案
電信法中改正法律案

海底電信線保護萬國聯合條約罰則改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領セリ

大正四年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)

大正四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第二號)

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案

同日衆議院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

罹災救助基金法中改正法律案
元屯田歩兵扶助ニ關スル法律案

○議長(公府德川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、諸君ニ御諮リヲ致シタイ事ガゴザイマス、簡易生命保險法案外一件ノ特別委員會ヲ此際開キタイト云フ御要求ガ出マシタ、御異議ガナケレバ許可イタシマス
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○伯爵松平賴壽君 私モ齒科醫師法中改正法律案ノ委員會ヲ開キタイト思ヒ
マスカラ、是ヨリ退場ノ御許シヲ願ヒタイ

○議長(公爵德川家達君) 松平伯爵ノ委員會へ退席ノ要求ハ許可シテ御異存
ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第一、大正四年度歳入歳出總豫算追加案
第二號、第二、大正四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案特第二號、審査期
限ヲ定ムルノ件、本日モ通牒文ノ朗讀ハ省略イタシテ御異議ハゴザイマセヌ
カ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

「左ノ送付文等ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ
倣フ」

(第二號)大正四年度歳入歳出總豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正五年二月十九日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

(特第二號)大正四年度各特別會計歳入歳出豫算追加案
右本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正五年二月十九日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

「國務大臣武富時敏君演壇ニ登ル」

○國務大臣(武富時敏君) 大正四年度總豫算並ニ同年度ノ各特別會計豫算追
加ニ計上イタシタル經費ハ、何レモ緊急已ムヲ得ザルモノト認メマシテ
追加豫算ヲ提出イタシマシタ次第ゴザイマス、尙ホ御審議ノ上御協賛ヲ願
ヒタイト存ジマス

○子爵岡部長職君 兩案ノ審査期限ハ別ニ定メマセズ、審査結了次第報告ス
ルコトニ致シタイト思ヒマス

○男爵田健治郎君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 岡部子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ」

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 第三、明治三十九年法律第三十一號中改正法律案、
政府提出、衆議院送付、第一讀會

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正五年二月十九日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵德川家達殿

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案

明治三十九年法律第三十一號中左ノ通改正ス

附則ヲ左ノ如ク改ム

本法ハ大正十年十二月三十一日迄其ノ效力ヲ有ス

「國務大臣一木喜德郎君演壇ニ登ル」

○國務大臣(一木喜德郎君) 臺灣總督府ニ律令ヲ發布スルノ權ヲ與ヘテ居リ
マスル明治三十九年法律第三十一號ハ今年ノ終ヲ以テ其效力ヲ失フコトニナ
リテ居リマス、然ルニ臺灣ノ實情ハ尙ホ將來ニ於キマシテモ其存續ヲ必要ト致
シマスルノデゴザイマス、依ッテ更ニ五年間其效力ヲ延長シマスル目的ヲ以
テ本案ヲ提出イタシマシタノデゴザイマス、何卒御審議ノ上御協賛アラムコ
トヲ希望イタシマス

○水野鍊太郎君 內務大臣ニ御尋ヲ致シタイトデゴザイマスガ、此法律案ハ
是マデモ度々出テ居ルノデアリマス、唯今御説明ニナリマシタ如ク臺灣ノ實
情ハ今日モ尙ホ此法律ヲ繼續スル必要ガアルト云フコトデアリマス、如何ニ
モ左様デアルカモ知レマセヌ、然ルニ此大正十年十二月三十一日マデ其期限
ヲ延長サレルノデアリマスガ、此期限ヲ經過スレバ他日ハ斯ノ如キ法律ヲ要
セスト云フ見込デアリマセウカ、將タサウ云フ意味デハナイガ、兎ニ角今暫ク

期限ヲ延長シテ置カウ、斯ウ云フコトデアリマス、果シテ左様ナ……後段ノヤウナ意味デアリマスノナラバ、明治二十九年以來度々期限ヲ延長セラレテ居ル、而シテ今日尙ホ此法律ヲ繼續ノ必要ガアルト云フノデアリマスガ、果シテ左様ナコトデアルノナラバ、寧ロ期限ヲ附サナイデ置イテ此法律ヲ施行イタシテ置ケバ、他日必要ノ止シタ時ニハドン／＼此法律ハ廢止シ得ラレルデアリマス、期限ヲ三年五年ト云フ風ニ限リマスルト其度毎ニ色々ノ問題ガ生ズルノデアリマスガ、政府ニ於キマシテハ此期限ヲ五年ト限ル必要ハドウ云フ所ニアルノデゴザイマス、寧ロ期限ヲ附サナイ方ガ却テ實際法律上ノ便利ヲ得ルノデアラウカ、其邊ヲ伺ヒタウゴザイマス、第二ハ衆議院ニ於ケル問答ヲ拜見イタシマスルト云フト、此律令ヲ發布スルニ對シテハ何カ議決機關トカ、諮問機關トカ云フモノヲ設クルト云フヤウナ希望ガアッタヤウニ見受ケテ居ルノデアリマス、而シテ政府ニ於テモ之ニ對シテ同意セラレタカノ如ク承テ居ルノデアリマスガ、果シテ御同意ニナッタモノデアリマスルカ、若シ御同意ニナッタ致シマスルノナラバ、機關ヲ御設ケニナルノデアリマス、御承知ノ通り明治二十九年以後一時臺灣ニハ律令ニ關スル評議委員會ノヤウナモノガアッタデアリマスガ、是ハ段々實施シテ見マスルト其效果モナク、寧ロ官廳部内ノ一機關ニ過ギナイト云フコトデアリマシテ、疾クニ之ヲ廢止セラレタカノヤウニ記憶イタシテ居ルノデアリマスガ、此度ハ斯ノ如キモノデナイノデアルカ、將タ別様ノ組織ヲ有ッテ居ルモノヲ御組立ニナルノデアリマス、其邊ノ御腹案ハ今日大凡ドウ云フ風ニナッテ居ルノデアリマス、其點ニ付キマシテハ如何ナル御考案ガアルノデアリマセウカ、此二點ヲ伺ヒタイノデアリマスガ……

〔國務大臣一木喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣（一木喜徳郎君） 御答ヲ申上ゲマスルガ、第一ノ此法律ハ期限ヲ附スルノハ何故デアアルカト云フ御尋ハ至極尤モナル御質問ト考ヘマス、此歴史ハ御承知ノ通り當初ハ三年ノ期限ヲ附シテソレカラ度々之ヲ存續シ、明治三十九年ニ法律第三十一號ノ案ヲ政府カラ提出イタシマシタ際ニハ期限ヲ附サナカッタノデアリマスガ、貴族院ニ於テ修正ヲ加ヘラレマシテ、其結果五年ノ期限ヲ附スルト云フコトニナリマシタノデアリマス、而シテ更ニ五年ヲ延長シ、今回又更ニ五年延長ノ案ヲ提出イタシマシタノデゴザイマス、デ此第一ハ從來ノ例ニ依リマシテ永久ノ制度ヲ立テルト云フコトハ是マデ議院ニ於テ

モ認メラレナカッタノデアリマスカラシテ、今回モ亦前例ニ依ッテ期限ヲ附ケマシタノデアリマスルガ、去リナガラ此五年ヲ經過シタナラバ臺灣ニ於ケル特別ノ事情ハ止ムダラウト云フ見込ハナイノデアリマス、而シテ此殖民地ニ於キマシテハ何等カ特別ノ制度ヲ設ケル必要ガアルダラウト云フコトヲ今日カラ考ヘテ居ルノデアリマス、去リナガラ同ジ特別制度ト致シマシテモ、或ハ今日ノ法ヨリモ更ニ何等カ進步ヲ加ヘルト云フコトハ出來ハシナイノデアラウカ、是等ノ點ハ十分研究ヲ盡ス積リデアリマス、從來期限ヲ附シマシタノハ多分左様ナル意味デアッタラウト思ヒマス、今回モ期限ヲ附シテ提出イタシマシタ、其期限内ニ於テ十分研究ヲ盡シマシテ、若シ今日ノ制度ヨリ更ニ優タル方法ヲ見出シ得マシタナラバ、其時期ニ於テハ更ニ新ナル案ニ依ッテ御協賛ヲ仰グヤウナ時機モアラウト存ジマス、斯様ナル意味デアリマシタノデアリマス、第二ニ衆議院ニ於キマスル所ノ希望ハ明治二十九年法律第六十三號ニ於テハ評議員會ト云フモノヲ設ケテ居ッタガ、三十九年法律第三十一號ニ至ッテ之ヲ廢シタケレドモ、是ハ法律ノ上デ廢シタダケデアリマシテ、事實ニ於キマシテハ律令審議會ト云フモノヲ設ケテ其審議ヲ經ルコトニナッテ居リマス、ケレドモ衆議院ノ希望ト致シマシテハ評議員會ト申スカ、免ニ角此諮詢機關ヲ設ケテ、サウシテ其諮詢ヲ經テ制定スルコトニ致シ、而シテ其諮詢機關ハ唯今ノ如ク總督限リ決定ムルモノデナクシテ、勅令ヲ以テ之ヲ定メテ、其任命ハ政府ニ於テ之ヲ致ス、且ツ衆議院ノ希望ト致シテハ唯官吏ノミナラズ、官吏以外ノモノモ之ニ加ヘテ組織スルコトニ致シタイト云フ希望デアリマス、之ニ對シマシテハ第一諮詢機關ヲ設クルト云フコトハ政府ニ於テモ其考ヲ持ッテ居ル、而シテ其諮詢機關ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ、政府ガ其任命ヲスルコトニ付テモ政府ハ又衆議院ノ希望ト同ジ意見ヲ持ッテ居リマス、但其組織ニ付キマシテハ十分考慮ヲ加ヘ、事情ガ許セバ且又事情ガ許ス時機ニ於テハ衆議院ノ希望スルガ如ク、衆議院ノ希望ニ成ルベク添フヤウニ考慮ヲ加ヘヤウト云フコトヲ明言イタシマシタノデアリマス、是ハ唯今水野君ノ御話ノ如ク諮詢機關デアリマスレバ格別ノ必要モナイヤウデアルケレドモ、去リナガラ御承知ノ如ク律令ハ勅裁ヲ經ルコトニナッテ居リマス、勅裁ヲ與ヘラフルニ當リマシテハ諮詢機關ノ議決ガ總督ノ意志ト一致シテ居ルヤ否ヤト云フコトガ、勅裁ヲ與ヘルヤ否ヤニ付キマシテ餘ホド重キヲナスモノデアリマスカラ、決シテ諮詢機關ニ諮詢スルコトハ無用ノコトデナカラウト思ヒマス、

且ツ其組織ニ付キマシテハ十分ナル考慮ヲ加ヘル積リデアリマス、今日如何ナル組織ニスルト云フコトハ申上ゲ兼ネマスケレドモ、臺灣ニ於ケル實情ニ相當スルヤウニ、臺灣ノ特別ノ事情慣習等ニ適應スル立法ヲ與ヘルヤウニ、最モ適當ナル組織ヲ立テルト云フコトハ將來ニ於テ十分研究シ考慮スベキコトデアルト考ヘマス、ソレ故ニ前ニ申上ゲマシタ如ク衆議院ニ於キマシテ言明ヲ致シマシタ次第デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

○水野鍊太郎君 唯今ノ御答辯ニ依リマシテ御趣旨ハ能ク了解イタシマシタノデゴザイマス、且ツ期限ヲ附スル理由ハ必ズ此期限ヲ經過スレバ此法案ノ必要ヲ認メナイト云フ意味ニ於ケル期限デナイト云フコトデアリマシテ、是亦御趣旨ハ能ク了承イタシマシタ、併シ從來ノ謂ハユル六三法律案ノ改正案ニハ多少ノ變更ガアッタノデアリマスガ、此度ノハ内容ニ付テハ何等ノ變更ガナイ、單ニ期間ヲ延長スルト云フコトデアリマスガ、今日ノ臺灣ノ實情ニ於キマシテ、二十有餘年以來ノ經驗ニ鑑ミマシテ、律令ナルモノヲ成ルベク制限スル風ニ致シマシテ、謂ハユル立法委任ノ範圍ヲ狹クスルト云フヤウナコトニハナラナイノデアリマセウカ、此憲法ノ常道トカ變態トカ色ミノコトヲ云フ人ガアリマスガ、何レガ常道デ、何レガ變態デアルト云フコトヲ申スノデアリマセウカ、成ルベク立法委任ノ範圍ヲ狹クスルト云フコトハ或ハ適當デアラウカト思フノデアリマスガ、殊ニ臺灣ノ領有以來、既ニ二十有餘年ヲ經過シテ居リマス、全然之ヲ内地ト同一ノ制度ヲ以テ期待スルコトハ今日デモ尙ホ出來ナイノデアリマシテ、成ルベク内地ノ立法ノ範圍ニ近ヅケルヤウニスル風ノコトハ出來ナイノデアリマセウカ、是等ニ付キマシテ何等カノ御調査ガアッタノデアリマセウカ、今マデハ謂ハユル六三法案ノ變更ニ於キマシテハ多少ノ變更ヲナシツツアッタ、即チ其期限内ニ於テ内務大臣ノ謂ハユル進歩改良ヲ認メツツアッタヤウデアリマス、此度ノ法案ハ内容ニ付テ何等ノ變更ガナイノデアリマスカラ御伺ヒ致シテ置キマス、サウ云フヤウナ點ニ付キマシテ今少シク變更ヲ加ヘルヤウナ必要、若クハ利益ハナイノデアリマセウカ、此邊ニ付テ何カ御考ガアリマセウカ、若クハ御調査ガアッタノデアリマセウカ、之ヲ尙ホ伺ツテ置キマス

〔國務大臣一本喜徳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(一本喜徳郎君) 從來、此法律ノ效力ヲ繼續スル度ニ多少變更ガアッタト云フ御話ガアリマシタガ、明治二十九年カラ三十九年マデノ間ハ何等

變更ガアリマセウ、三十九年カラシテ爾來五年毎ニ又繼續シテ居リマスケレドモ其間ニ於テモ何等變更ハナイノデアリマス、明治二十九年ノ法律第六十三號ハ三十九年ノ法律第三十一號ト變ハリマシタケレドモ、其内容ニ於テハ著シイ變化ハアリマセウ、唯多少ノ變化ハ此間ニアッタ、此時ニハ三十九年ノ法律第六十三號ヲ廢シテ何等カ新シイ制度ヲ立テルト云フコトヲ議會ニ於テモ明言ヲ致シ、其結果ト致シテ提出セラレタモノガ明治三十九年ノ法律第三十三號デアリマス、ソレ故ニ此時ハ多少ノ變化ガアリマシタケレドモ大體ニ於テハサウ變タコトハナイ、ソレデ今後如何ニスルカ、既ニ二十年モ經タノデアアルカラモウ何トカ變ヘタラ宜カラウト云フ御考モアルヤウデアリマス、是ハ衆議院ニ於テモ同ジヤウナ議論モアリマシタ、既ニ當時私ガ述ベマシタノハ、二十年ノ歲月ハ此三百餘萬ノ異人種ヲ包容シテ居ル所ノ新領土ニ對シテ同化ノ實ヲ舉ゲル所ノ大事業ニ對シテ決シテ長イ歲月デハナイト云フコトヲ申述ベタノデアリマス、私ハ又深ク斯様ニ信ジテ居リマス、ナカノ人種ヲ異ニシ、習慣風俗ヲ異ニシ、思想ヲ異ニシ、言語ヲ異ニシテ居ル所ノ三百餘萬ノ異人種ヲ含ンデ居ル新領土ニ對シテ同化ノ實ヲ舉ゲルト云フコトニ付テハ、二十年三十年ノ歲月ノ能クスル所デナイト云フコトハ申スマデモナイコトデアラウト思ヒマス、ソレ故ニ二十年ノ歲月ヲ經タカラモウ餘ホド變ハリサウナモノデアルト云フコトハ少シ實際ニ當ラヌ御批評デハナカラウカト思フノデアリマスガ、免モ角、前ニモ申述ベマシタ如ク多少ノ改良進歩ヲ遂ゲル餘地ガアレバ、何トカ此五年ノ歲月ノ間ニ十分考慮イタシタイト思ヒマスケレドモ、今日ニ於キマシテハマダ三十九年ノ法律第三十一號ニ對シマシテ大ナル變化ヲ加ヘルノ時機ニ達シテ居ラヌト考ヘマス

○黒岡帶刀君 内務大臣ニチヨット質問イタシタイ、本員ハ此繼續ハ臺灣ノ狀態ニ於テ尙ホ本法ヲ繼續スル必要ガアルト云フコトデアリマス故ニ、府縣制等ノ準備ノ整ハヌニ依リ差當リ其準備ガアル故ニ之ヲ繼續シタイ、斯ウ心得テ居ッタ、所ガ内務大臣ハ臺灣ハ殖民地デアルト云フコトヲ仰ッシャル、ソレニ對シテ御意見ヲ伺ヒタイ、又其後新領土デアルト仰ッシャル居ルヤウデアアル、ドチラガ本當デアアルカ、殖民地デアアルカ、新領土デアアルカ、私ノ解釋ヲ一應申上ゲテ置キタイト思ヒマス、ソレニ御同意デアアルカナイカ、臺灣ハ元ハ支那十九省ノ一省ナル臺灣省デアッテ、支那ニ於テハ殖民地デナイ、山東省ト同ジデ臺灣省ト申シマシテ殖民地デハナイ、ソレガ日清戰爭ノ結果、日本

ニ支那ヨリ割讓イタシテ、日本ノ帝國内ニ併合イタシマシタ、ソコデ昔樺太交換トカ千島交換トカ云フコトモアツテ、將來臺灣省ヲ又再ビ他ニ割讓ヲ餘儀ナクセラルルヤ否ヤト云フコトヲ懸念スル人ガアリマス、臺灣人ニ於テモ同様一應日本ノ占領ニナツテモ、又還附スルヤウナコトニナリハセヌカト云フコトノ懸念ガアツタヤウニ見エマス、ソコデ日本政府ハ萬國ニ向ッテ臺灣ノ地位ニ對スル宣言ヲ致シマシタ、其宣言ヲ讀ンデ見マセウカ

臺灣海峡自由航行等ノ件ニ關スル宣言

帝國政府ハ一般ノ國際、通商ノ利害ヲ慮リ左ノ如ク宣言ス

帝國政府ハ臺灣海峡ヲ以テ全ク各國公共ノ航路ト認メ該海峡ハ獨リ日本國ノ專有又ハ管轄ニ屬スルモノニアラスト宣言ス

帝國政府ハ臺灣及澎湖島ヲ他國ニ讓與セサルコトヲ約ス

是ハ日本帝國ハ徹頭徹尾日本ハ樺太千島交換ト同様ニ割讓ト云フコトハシナイト云フコトヲ斷言シタノデアリマス、之ガ爲ニ臺灣人ハ大ニ安心シテ動搖スルコトガ少クナリ、且又外國ニ於テモ臺灣ハ永遠ニ日本帝國内ニ保存セラルルコトヲ確メマシタノデアアル、ソレカラ又臺灣人ハ日本臣民デアルト云フコトハ、其後日本ガ度々聲明シテ居ル日本臣民デ、支那ト日本トノ條約中ニ於ケル日本臣民デアアル、日本人ト臺灣人トハ日清條約等ニテ對等ノ同ジ特權ヲ有シテ居ルノデアアル、臺灣人即チ廈門ニ行ッテ居ル者ガ千人内外モアリマセウ、ソレ等ハ日本ノ領事ノ支配下デ、日本ノ商法日本ノ民法日本ノ刑法等ノ支配ヲ受ケテ居ル、日本人ト同ジヤウニ生活シテ何等差支ナイ、ソコデ明治三十三年八月ニ廈門ニ暴動ガ起ッテ日本ノ軍艦カラ陸戰隊ヲ英國ノ居留地邊ニ上ゲタトキニ、英國ノ領事ヨリ何故ニ支那人暴動ノ爲ニ兵士ヲ猥ニ英國ノ專管居留地ニ御上ゲナサルカト云フ抗議ガアツタ、其時ニ又香港新聞等ガ日本人ガ僅バカリ廈門ニ行ッテ居ッタカラトテ、兵ヲ上ゲテ保護スルコトハナイト云ッタ、私ガ臺灣ニ在勤ノトキニ廈門ニハ時トシテ臺灣ノ新日本臣民ガ千人内外モ居ルコトアリ、此財產モアリ、臺灣人ト云フモノハ日清條約ニモアル日本臣民デアアル、之ヲ我ガ海軍ニ於テ保護スル義務モアリ、權利モアル、廈門ニ決シテ日本ノ利益ガナイトハ云ヘヌ、却ッテ英國ヨリハ數倍ノ權利ガアルト云フコトデ香港新聞ニ書カセタコトガアル、是ハ其後臺灣人ニ對シ別ニサウ云フ故障モ起ラヌヤウニ思フ、本員ハ明治三十一年中ニ臺灣總督府ノ評議會ニ列シテ居タ、其時ニ律令ハ餘ホド議定セラレタ、其律令ト云フモノノ中ニ船舶ノ

律令ト云フモノモアル、日本ノ船舶法ニハ何ト書イテアルカト云フト、日本ノ船舶ハ日本人民ニ屬スルモノデアアル、日本ノ船舶ニアラザレバ國旗ヲ掲グルコトヲ得ズ、臺灣人ハ日本臣民デアアルカラ、臺灣ニ屬スル所ノ船舶支那形「ジャンク」モ日本人所有船舶ト同ジヤウナ權利ヲ有ッテ居ル、日本ノ國旗ヲ掲ゲテ、サウ云フヤウナコトヲ致シテ居ル、故ニ條約國ニ於テハ臺灣ノ「ジャンク」ト雖モ之ヲ尊重シテ居ル、ソコデ日本ノ大變利益ニナツテ居ル、臺灣人モ利益ヲ蒙ッテ居ル、ソコデ支那人ニ於テモ臺灣人ニナリタイト云フコトヲ希望スル者ガ出テ來タ、ドウ云フ譯カト云フト、臺灣人ハ大變特權ガアツテ總テノ事柄ハ領事ノ保護ヨリ帝國軍艦ノ保護ノ下ニ置イテアルカラ、大變ニ利益デアアル、サウ云フ感情カモ知レマセヌガ、大分其頃ハ臺灣人ニナリタイト云フ支那人ガ多ク、英國ニ於テハ之ヲ英國ノ臣民トハ申サヌ、之ヲ殖民地「コロニヤ」ラ、サブゼクト」ト云フノデ英國ノ領土内ノミデ保護ヲ受ケテ居ル、併ナガラ臺灣人ハ即チ日本臣民タルガ故ニ、香港ニ居ル英國支那人トモ違ッテ居ル、香港ハ英國ノ殖民地デアアル、又帝國ノ條約ノ日本人ノ中ニ間島ノ朝鮮人ガ籠ッテ居ルヤ否ヤト云フコトハ、支那政府ヨリ日本ニ照會シタルコトガアルヤウニ新聞紙ニ見エテ居ル、併ナガラ列國ハ朝鮮人モ臺灣人同様ト見テ居ル、朝鮮モ臺灣モ「ステーツマン、イヤーブク」政治年鑑ト云フ英國出版シタ本ニ日本帝國デアルト云ツデアリマス、其中ニハ臺灣ハ日本ノ「コロニー」ト書イテアリマセヌ、各國ノ政治家ガ殖民地トハ見做サヌノデアアル、ソコデ別ニ本員ハ本法ノ繼續ニ反對スルノデナイ、御説明中ニ殖民地ト云ヒ、新領土ト云ヒ色々仰ッシャル、一木内務大臣ハ臺灣ハ殖民地トモ仰ッシャルコトハナイカ、一應確メテ置キタイ

〔國務大臣一木喜德郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(一木喜德郎君) 臺灣ガ殖民地デアアルヤ否ヤト云フコトヲ強ヒテ論ジマスルト言葉ノ爭ニナリマスルカラ、是ハ私ハ避ケタイト存ジマス、殖民地ト云フ言葉ニ如何ナル意味ヲ有タスルカト云フコトハ人ニ依ッテモ色々違ヒマセウカラ、若シ殖民地ト云フ言葉ヲ用ヒタノガ議論ノ本ニナリマスルナラバ私ハ其言葉ヲ取消シマス、ソレデ臺灣ノ臣民ガ帝國臣民デナイト云フ意味デハゴザイマセヌシ、又臺灣ガ帝國ノ領土ノ一部デナイト云フコトヲ申シマスル意味デハナイ、唯今黑岡サンカラ段々御話ノゴザイマシタ事柄ハ私

ノ申シタ趣旨ト少シモ牴觸シナイ積リデアリマス、詰リ臺灣ニ於テハ内地ト同シ立法方法ヲ取ルノガ宜イカ、或ハ特別ノ立法方法ヲ取ルガ宜イカト云フコトニ付キマシテハ問題デアリマシテ、其事ハ先刻申述ベタ積リデアリマス、殖民地デアアルヤ否ヤト云フコトニ付キマシテハ、私ハ若シ御議論ガアレバソレハ避ケタイト存ジマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ特別委員ノ氏名ヲ書記官ヲシテ朗讀イタサセマス

〔河井書記官朗讀〕

明治三十九年法律第三十一號中改正法律案特別委員

伯爵柳原 義光君

山 脇 玄君

子爵堀河 護麿君

小 牧 昌業君

柴田 家門君

岡 喜七郎君

男爵岩倉 道俱君

木場 貞長君

堀 正一君

○議長(公爵徳川家達君) 第四、砂鑛法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

砂鑛法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

大正五年二月十八日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

砂鑛法中改正法律案

砂鑛法中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ如ク改ム

本法ニ於テ砂鑛ト稱スルハ砂金、砂鐵、砂錫其ノ他冲積鑛床ヲ爲シタル金屬鑛ヲ謂フ

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○子爵井上匡四郎君 本案ニ付テ政府ハ衆議院ニ於テ御同意ニナツテ居ルノデアリマスルガ、此金屬鑛ト申シマスル中ニ政府委員ノ衆議院ニ於カレマシタ御答辯ニ依リマス云フト、稀土鑛トカ「トリウム」「タンタリウム」「ウラニウム」トカ云フ極クムヅカシイ名前ノモノガ云々トゴザイマシテ、斯ウ云

フモノヲ金屬鑛トシテ此法律案ノ支配ヲ受ケルコトニナツテ居リマスルガ、是等マデハマダ金屬鑛トシテ相當ニ認メラレルモノト思ヒマスルガ、其他ノ斯ノ如キモノト同様ニ冲積層ヨリシマシテ金屬鑛トシテ認メ得惡イヤウナモノガ砂鑛トシテ産出イタシマスル、例ヘバ「ベリール」デアリマス「サッファイヤ」トカ、「オパール」ト云フ種類ノモノニナリマス、強ヒテ之ヲ金屬鑛ト言フテ言ヘナイコトハナイカト思ヒマスルガ、普通ノ意味ニ於キマスル所ノ金屬鑛ト云フコトヲ以テ之ヲ包含スルト云フコトハ困難デ又不穩當デアラウト思ハレマスル、サウ云フモノハ此度改正ニナリマスル所ノ砂鑛法ノ支配ヲ受ケナイト云フ御考デアリマスカ、若クハ又此金屬鑛ト云フ名前ヲ以テ斯ウ云フモノモ包含サレヤウト云フ御考デアリマセウカ、其點ヲ承リタイト思ヒマス

〔政府委員磯部正春君演壇ニ登ル〕

○政府委員(磯部正春君) 唯今井上子爵ヨリ御尋デゴザイマスルガ、此砂鑛法ニハ金屬鑛ニシテ砂鑛狀態ヲナシ居ルモノニ止メル趣旨デアリマシテ、唯今御尋ノ如キ種類ノモノハ這入ラス積リデアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔河井書記官朗讀〕

砂鑛法中改正法律案特別委員

子爵冷泉 爲勇君

子爵片桐 貞央君

子爵大河内 正敏君

渡 正 元君

男爵若王子 文健君

男爵島津 久賢君

石 黒 五十二君

中村 治兵衛君

鎌田 勝太郎君

○議長(公爵徳川家達君) 第五、農會法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

農會法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

大正五年二月十八日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

農會法中改正法律案

農會法中左ノ通改正ス

第一條ノ三 農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ

農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

市町村農會ノ經費又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ市町村農會長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村税ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テ市町村農會ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ
前項徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村、水利組合其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次クモノトス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔河井書記官朗讀〕

農會法中改正法律案特別委員

侯爵松平 康莊君 伯爵吉井 幸藏君 子爵伏原 宣足君

子爵伊集院 兼知君 男爵青山 元君 安樂 兼道君

依田仙右衛門君 廣瀬 滿正君 上松 泰造君

○議長(公爵徳川家達君) 第六、罹災救助基金法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

罹災救助基金法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

大正五年二月十九日

衆議院議長島田三郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

罹災救助基金法中改正法律案

罹災救助基金法中左ノ通改正ス

第十七條第一號及同號但書中「地方債證券」ノ下ニ「農工債券北海道拓殖銀行債券」ヲ加フ

○江木千之君 チョットシタコトデアリマスルガ、御質問イタシタイト思ヒマス、此法案ニ農工債券トアルノハドウ云フモノデアリマスカ、チョット政府委員ノ説明ヲ承リタイ

〔政府委員加藤政之助君演壇ニ登ル〕

○政府委員(加藤政之助君) 唯今江木君ノ御尋ニ御答イタシマス 農工債券

トアリマスノハ農工銀行ガ發行イタシタ債券デアリマス

○藤田四郎君 本案ニ付キマシテハ政府ハ御同意デアリマスカ、如何デアリマセウカ伺ヒタイト思ヒマス、尙ホソレニ付キマシテ一二御尋ネ致シタイト存ジマス、序デ上一緒ニ申上ゲテ置キマス、本案ニ於キマシテハ農工債券、北海道拓殖債券、此二ツヲ即チ罹災救助基金法ニ於テ金ノ運用ニ於テ買ヘル、斯ウ云フコトニナサル御趣意ノヤウニ思ヒマス、元來此本案ノ目的ト云フモノハ此債券ト云フモノヲ、極メテ安全ニシテ容易ニ現金ニ代リ得ベキモノヲ以テヤルト云フコトガ法ノ精神デナケレバナラヌト思ヒマス、農工債券、北海道拓殖債券ノ如キモ相當ノ信用ノアル債券デアリマセウケレドモ、今マデ此年來ノ歴史ヲ考ヘテ見マスト云フト、多クハ地方ノ黨派等ニ依リマシテ銀行ガ貸與サルルト云フヤウナコトガアリマシテ、ソレガ爲ニ屢々信用ノ程度如何ト云フコトヲ聞及ブ所デアリマス、デ此地方ノ大切ナ救助基金ト云フモノヲ斯ノ如キモノニ果シテ金ヲ運用シテ置イテ差支ナイモノカドウカ、現在ニ於テハ國債證券、地方債證券ニ止ッテ居ルカト思ヒマスガ、政府ハ其監督セラレルモノハ何レモ確實ナルモノデ、又其債券ハ安全ニ資金ニ換ハル、又容易ニ資金ニ換ハルト云フ御見込デアルカ否ヤ、又是等ノ如キ債券ヲ斯ウ云フ基金法ニ於テ運用上ニ使ヒ得ルト云フナラバ、同ジ目的ニ依ル所ノ興業債券モ勸業債券モ尙更是ヘ入レナケレバナラヌモノダト思ヒマス、此興業債券、勸業債券ノ如キハ中央ニ於テ發行セラルルモノデゴザイマス、ケレドモ矢張り實際ニ於テ地方ノ勸業上ニ關係スルコトハ地方的ノモノト同ジコトデアリマス、農工債券ノ如キモノハ、或ハ甲ノ縣ノ株式會社ガ發行シタ債券ヲ乙ノ縣若クハ丙ノ縣ニ於テモ其株式會社ノ發行シタル債券ヲ買ヒ得ルコトニナリマス、ソレハ其發行シタル縣ニ於テ其債券ヲ買入ルコトガ出來ルト云フナラバマダ幾分カ理窟ガアルノデゴザイマスガ、此案ハサウ云フ意味デハナイ、ドコノ縣デ發行シタル債券デモ買入レルコトガ出來ル、例ヘバ東京ニ於テモ長崎縣デ發行シタル農工債券ヲ買入レルコトガ出來ルヤウニ見エル、ソレデハ地方ト云フ意味ガ少シモ效能ガナイカト思ヒマス、ソレ等ニ付テハ政府ハ如何ナル御考ヲ有ッテ居ラルルノデアルカ、一應伺ヒマス

〔政府委員加藤政之助君演壇ニ登ル〕

○政府委員(加藤政之助君) 藤田君ノ御問ニ御答ヲ致シマス、政府ハ此案ニ同意デアルカナイカト云フ御尋デアリマシタガ、此案ニハ政府ハ同意ヲ致シ

マスノデアリマス、而シテ其北海道ノ拓殖銀行債券、農工銀行ノ債券ノ如キモノヲ此罹災救助基金デ買入レルコトニナリマシタラバ、罹災救助基金ノ運用上ニ於テ差支ヲ起シハセヌカト云フ御尋デゴザイマス、罹災救助基金ハ總體ニ於テ金五千萬圓アリマス、其中三千五百萬圓ハ公債ニナッテ居リマス、ソレカラ地方債券ハ稍々千萬圓バカリデアリマシテ、其他ハ土木費ニ流用若クハ此債券ヲ買入レル資金ニ充當セラレル譯デアリマス、勿論罹災救助基金ハ非常ノ場合ニ於キマシテハ急速ニ之ヲ要スルコトガアリマスノハ藤田君ノ御尋ノ通りデアリマス、デ政府ノ當局ハ其點ニモ考慮ヲ及ボシテ居ルノデアリマス、併ナガラ右ノ如キ運用ノ狀況ニナッテ居リマスルカラ、縱令若干急ニ資金ヲ要スルコトガアリマシテモ、實際ノ運用上ニハ差支ナイモノト考ヘテ居ルノデアリマス、又其次ニハ勸業債券、興業債券ノ如キモノヲナゼ入レヌカト云フ御尋デアリマスガ、勸業債券ノ如キハ相當ニ割増金モ附イテ居リ相當ニ信用モアルノデアリマス、又是ハ日本銀行ノ見返品ニモ這入ッテ居ルノデアリマス、殊更罹災救助基金デ買入レル中ニ加ヘテ運用シナケレバナラヌト云フ必要モナカラウ、衆議院ニ於テハ既ニ委員會ニ於テ其議論ガ起リマシタケレドモ、是ハ同意者ガ少クシテ成立ヲシマセナシタノデアリマス、ソレデ政府當局トシテソレヲ加ヘタ所ガ強ヒテ反對ハ致シマセヌノデアリマス、右ノ狀況デアリマスカラ、然ルベク……

○藤田四郎君 唯今ノ御説明デハ甚ダ私ハ満足イタシマセヌノデアリマス、之ニ勸業債券興業債券ノ如キモノヲ入レルニ付テハ政府ハ異存ハナイト云フコトデゴザイマシタガ、私共ノ御尋スルノハサウ云フコトデハゴザイマセヌ、此罹災救助基金法ト云フモノハ即チ罹災救助スルト云フ目的カラ出來テ居ルノデアアル、然ルニ唯今ノ御説明ニ依リマスルト云フト、ドウモ農工銀行ヤ北海道拓殖銀行ヲ救助スルト云フヤウニ取リ易ク思ハレマスガ、元來サウ云フモノデハゴザイマセヌ、勸業債券ノ如キ興業債券ノ如キハ相當ニ信用ノアルモノデアルカラ是ニ入レナイト云フコトデアッテ見ルト、其他ノモノハ不信用デアルカラ是ハ入レルト云フヤウナ形ニモ見得ラレテ、甚ダ其理窟ガ通ラヌカト思ヒマス、罹災救助基金ト云フモノハ元來サウ云フモノデハナイ、確實ニシテ運用ノ上ニ安全ナルモノヲ選バナケレバナリマセヌ、信用ノ不安全ノモノヲ地方ト云フ名前ノ下ニ取ルコトニスレバ實ハ地方デハナイノデアアル、然ルニソレヲ此中ニ加ヘテ置クト云フコトニナルノデアリマス、是ハ實際良

クナイダラウト思ヒマス、若シモ實際ノ事情ニ於テ必要デアルト云フコトナラ、何レモ之ヲ入レルト云フ政府ノ主張デアレバソレハ尤モト思ヒマスガ、入レテモ差支ハナイ、入レナクテモ差支ハナイト云フコトデハドウモ其趣意ガ分ラヌヤウデアリマス、此救助基金法デ銀行ヲ救恤スルヤウナ意味ニ政府委員ノ説明デハ聞エマシタカラ、尙ホモウ一應……

〔政府委員加藤政之助君演壇ニ登ル〕

○政府委員(加藤政之助君) 藤田君カラ重ネテ御尋デハアリマスガ、銀行ヲ救恤スル意味デハナイノデアリマス、此農工債券ノ如キモノ、北海道拓殖銀行債券ノ如キモノハ無論相當ニ信用ガアルノデアリマス、ソレデ罹災救助基金ノ一部ヲ以テソレヲ買入レマシタ所ガ罹災救助基金ノ運用上ニハ何等故障ハナイト當局デハ考ヘマシタ、ソレ故ニ此運用上希望モアリマスルカラソレヲ入レルト云フコトニ政府ハ同意ヲ致シマシタ、若シ罹災救助基金ノ運用ニ差支ガアルナレバ、無論ソレ等ヲ入レル譯デアリマセヌノデゴザイマス

○藤田四郎君 モウ一回御尋ネ致シマスルガ、政府委員ハ運用上差支ナイト言ハレマスガ、農工債券ノ如キモノハ日々之ヲ市場デ安全ニ處分ヲスルコトガ出來ルデゴザイマセウカ、如何デゴザイマス、時ニ依ルト外ハ頼ンデ買ッテ貰フヤウナ途ヲ取ラナケレバイカヌコトガアラウト思ヒマスガ、如何ナモノデアリマスカ、中ニハ信用ニ依ッテ行クモノモアリマセウガ、全府縣押並ベテハ甚ダ懸念デハナイカト思ヒマスガ、如何デゴザイマセウ

〔政府委員加藤政之助君演壇ニ登ル〕

○政府委員(加藤政之助君) 農工債券モ相當ニ信用ガアッテ、一朝之ヲ賣ル必要ガ起ッタ場合ニソレガ賣レヌトハ考ヘテ居リマセヌ、ソレノミナラズ前申シマスル通り罹災救助基金ノ大部分ハ公債ニナッテ居ルノデ、即チ公債ガ三千五百萬圓アリマスノデアリマス、此罹災救助基金ガ全部、一朝事アッテ要ラナケレバナラヌト云フヤウナ場合ハ先ヅ稀デアラウト思ヒマス、ソレ故ニ其運用上ニハ縱令少許ノ農工債券若クハ北海道拓殖債券ヲ買入レマシタ所ガ差支ナイモノデアアラウト斯様ニ考ヘテ居リマス

○藤田四郎君 唯今ノ御答辯デモウ一應伺ハナケレバナラヌコトガ出來マシタノハ甚ダ遺憾ニ思ヒマス、全體國債證券ガ三千五百萬圓アルカラ、アトハ千五百萬圓以下デアアル、是ハ賣レルノデアアルガ賣ッテ仕舞ッテ又アトヲ買フ、ソナコトハ何ノ役ニモ立たヌコトニナリマスガ、如何デゴザイマス

「政府委員加藤政之助君演壇ニ登ル」

○政府委員(加藤政之助君) 御答イタシマス、全部ヲ此農工銀行ノ債券若クハ拓殖銀行ノ債券ニ運用スルト云フコトニハ此法律ハナツテ居リマセヌ、制限ガ三分ノ一ニ決ツテ居リマス、其三分ノ一ト云フ但書ノ中ニ這入ツテ居リマス

○議長(公爵徳川家達君) 他ニ御質問モナイト認メマスカラ、本案ノ特別委員ノコトニ付テ御諮リヲ致シタイト考ヘマス、本案ノ特別委員ハ諸君ニ於テ御異議ガゴザイマセヌケレバ、北海道會法中改正法律案ト同一ノ委員ニ付託シタイト存ジマス

「岡田良平君」チヨット伺ヒマス北海道……」ト呼フ

○議長(公爵徳川家達君) 岡田君ハ……

○岡田良平君 チヨット伺ヒタイノデス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ノ特別委員ハ北海道會法中改正法律案ト同一ノ委員ニ付託シタイト思ヒマス

○岡田良平君 是ハ性質ノ違フモノデアリマスカラ、別ニ委員ヲ御指名下スツタ方ガ宜シカラウト思ヒマス、北海道會法トハ非常ニ性質ノ異ッタモノデス

○藤田四郎君 唯今岡田サンノ言ハレルコトハ餘ホド意味ノアルコトト思ヒマスガ、若シ從來アル所ノ委員ニ付託スルナラバ、銀行等ノ關係ノモノニ御付託ニナルナラ異議ハゴザイマセヌ

○議長(公爵徳川家達君) 岡田君ノ御説ガ出マシタ以上ハ採決ヲ致シマス、議長ノ唯今申シマシタコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 無シ

○議長(公爵徳川家達君) 起立者ナイト存ジマスカラ他ノ委員ニ付託スルコトニ致シマス、其氏名ハ追ツテ御報告ニ及ビマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第七、元屯田歩兵扶助ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會

元屯田歩兵扶助ニ關スル法律案

右本院提出案及送付候也

大正五年二月十九日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長島田三郎

元屯田歩兵扶助ニ關スル法律案

第一條 明治二十五年以後明治二十七年以前ニ召募シタル屯田歩兵ニシテ明治二十七年勅令第九十四號ニ依リ現役年限ヲ延長セラレタル者又ハ明治二十三年勅令第八十一號屯田兵條例第四條ニ依リ其ノ兵役ヲ相續シタル者及此等ノ者ノ家督相續人ハ延長ノ現役ヲ勤務シタル期間ニ相當スル扶助料ヲ請求スルコトヲ得

第二條 扶助料ハ一人ニ付現役延長勤務初ノ二箇年間ハ一箇月金一圓六十錢其ノ後ハ一箇月金五十二錢五厘ノ割合ニ依ル一箇月未滿ハ之ヲ一箇月ト看做ス

一戸ノ人員ハ三人ト推定ス若公文書ニ依リ十六歳以上六十歳未滿ノ者三人以上アリタルコト明カナルトキハ其ノ人員ニ依ル

第三條 本法ニ依リ給與ヲ受ケムトスル者ハ本法施行後一箇年以内ニ北海道廳長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ請求スヘシ

請求書ニハ請求ノ事由ヲ具シ證據ヲ添付スヘシ

第四條 扶助料ハ公債ヲ以テ支給スルコトヲ得但シ五十圓未滿ノ金額ハ現金ヲ以テ支拂フヘシ

第五條 大藏大臣ノ處分ニ不服アル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○小野田元熙君 陸軍省ノ政府委員ニ御尋ネ申上ゲマス、本案ニ付キマシテ陸軍省ノ御意嚮ハ如何デゴザイマセウカ

「政府委員隈徳三君演壇ニ登ル」

○政府委員(隈徳三君) 御答ヲ致シマスルガ、元屯田兵扶助ニ關シマスル件ハ氣ノ毒ナガラ政府ニ於テ救助スベキ義務アリヤ否ヤト云フコトハ、法規ニ照シマシテ救助ノ義務ナシト云フ結果ニナリマスル、併ナガラ此屯田兵ガ召募ヲ致サレマスルトキニハ、現役三年ト云フノデ召募イタサレマシタ、然ルニ俄ニ三年ガ延ビマシテ現役七年ト云フコトニナリマシタ、付キマシテ給與モ亦三箇年ノ給與ヲ受ケテ濟ンデ居リマス爲ニ、他ノ四箇年ノ給與ヲ受ケズニ濟ンデ居リマス、豫備役ニ這入リマスノニ比ベマシテ現役ハ相當ノ練兵或ハ

演習、其他身分上ノ拘束モ比較的多少受ケマスル爲ニ、生計上打撃ヲ受ケテ居ルト云フコトニ付キマシテハ、十分ニ同情ヲ致シテ居リマス、要スルニ既ニ御詮議ニナツテ居リマスル奈古浦丸救恤ニ類シタ考ヲ持ツテ居リマス、是ダケノコトヲ申シテ置キマス

○議長(公爵徳川家達君) 別ニ御質問モゴザイマセヌケレバ本案ノ特別委員ノコトニ付テモ御諮リヲ致シタイト存ジマス、此特別委員ハ軍人恩給法中改正法律案ノ委員ニ付託シタイト存ジマスガ、諸君ノ御意見ヲ伺ヒタウゴザイマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、左様取計ヒマス、是デ本日ノ議事ハ了リマシタ、次ノ議事日程ハ決定次第御通知ニ及ビマス、本日ハ是デ散會ヲ致シマス

午前十一時七分散會